

広域避難者支援連絡会 in 東京

第 16 回広域避難者支援ミーティング in 東京 報告書

平成 30 年 4 月

広域避難者支援連絡会 in 東京

- 2017 年 11 月、連絡会 in 東京では JCN と共催で関東圏の当事者団体を対象に「広域避難者支援ミーティング in 関東」を実施した。1 都 5 県から 18 団体 30 名弱の方が参加され、震災から 6 年半が過ぎる中での広域避難者の現状や課題について意見交換を行った。
- ミーティングでは、当事者団体と地域との交流や当事者同士の交流、そして、活動の継続に関する悩みも多く聞かれた。今後はより地域住民との交流が重要になるのではないか、また、当事者同士の交流については、避難者同士の交流に加え、新たな関係としてのつながりが必要になってきているという声もあった。
- こうした当事者からの声に対して、支援団体として何ができるか検討するために、広域避難者支援ミーティング in 東京を開催した。

1 日時 平成 30 年 3 月 8 日（水）午後 2 時 00 分～4 時 40 分（午後 1 時 30 分開場）

2 場所 全水道会館 4 階 大会議室
〒113-0033 東京都文京区本郷 1-4-1

3 参加者数 37 団体 49 名
うち、当事者団体 4 団体 7 名
支援団体 33 団体 41 名（行政含む）



4 内容

プログラム 1 広域避難者支援ミーティング in 関東の報告

＜広域避難者支援ミーティング in 関東の報告＞

報告者 広域避難者支援連絡会 in 東京（中央労働金庫） 岩村真奈美

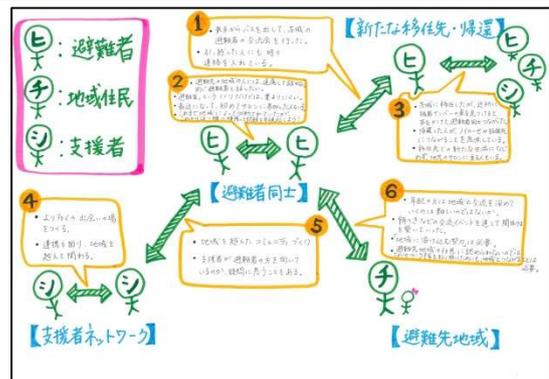
＜広域避難 当事者団体アンケートの報告＞

報告者 広域避難者支援連絡会 in 東京（東京ボランティア・市民活動センター）加納佑一

プログラム 2 意見交換・情報交換

「意見交換・情報交換」では、A～F までの 6 つのグループに分かれ、意見交換を行いました。

意見交換を行う切り口として、右の図を参加者に見て頂き、当事者を中心としてさまざまなつながりがあるなかで、参加者自身がどの「つながり」に注目しているのかを出していただきながら、進めました。右図にある「つながり」の種類は下記のとおりです。



- ①避難中の避難者と新たな移住先・帰還先の避難者とのつながり
- ②避難中の避難者同士のつながり
- ③新たな移住先・帰還先の避難者とそこでの地域住民や支援者とのつながり
- ④支援団体同士のつながり
- ⑤避難中の避難者と支援者とのつながり
- ⑥避難中の避難者と避難先の地域住民とのつながり

上記6つのつながりを軸に、「気になったキーワード・声」と、「支援者・支援団体としてできること」を意見交換しました（それ以外のつながりは⑦として記載）。以下は、グループBの意見交換の結果です。全グループの結果は別紙。なお、意見交換・情報交換のプログラムの全体進行ならびに各グループの進行は日本ファシリテーション協会にご協力頂きました。

◆2018年3月8日グループワークのまとめ〔グループB〕

分類	気になったキーワード・声	支援者・支援団体としてできることは？
① 避難者間 (避難先⇄移住先・帰還)	○住宅の問題。避難先から他の地域に転居する人の増加。	
② 避難者間(避難先内)	○一人暮らしの人は、きっかけがないとどこにも行かない。(誘えば行く) ○家族や知り合いの方が亡くなりさびしくなっている。つながりを続けたい。	○ゆるやかなつながり(ファミレスでお茶を飲む等)を作る・続けること。
③ 避難者⇄移住・帰還した地域	○転居した人の近況が気になる。 ○帰還しても商店、病院などの施設がなく不便と聞く。 ○帰還した人自身で生活環境を整える等の負担が大きいのではないか。	○②と⑤のようなつながりがあることを①の人に知らせること。 ○③のようなつながりができるように移住・帰還先の住民に避難者のことを知らせること。
④ 支援者間	○どこまで(いつまで)支援をするのか。交流会は決まった人が来る。来ていない人への対応はどうするのか。 ○住宅の供与期限までどう情報を届けるのか。 ○伴走支援をしていく必要があるのではないか？伴走支援員はどこにいるのか、誰なのか。避難者はどんな人に伴走してほしいのか。	○避難者支援に関心のある人が寄り添うスキルを学ぶ機会を作る。 ○避難者支援をしている人同士が伴走支援や情報交換をすること。
⑤ 避難者⇄支援者	○初めのころは集まれるだけで楽しかったが、時間の経過とともに集まる目的は変化している。 ○転居後も、以前の避難先のサロンに参加できるところとできないところがある。 ○遠方のサロンや茶話会に来る人もいる。住まいの近くの交流会では話にくいことがあるのではないか。 ○転居した人が地域になじむまで支援したいが、行政区をまたぐと情報が入らず心配。	○きっかけを待っている人に届く支援(新しい企画、情報発信方法の工夫)。 ○これまでとは異なる支援内容の工夫。 ○地域(行政区?)を超えた避難者支援取組み。 ○支援者と避難当事者グループの横のつながりを深め、情報交換を密に行うこと。
⑥ 避難者⇄避難先地域	○地域とのかかわりは個人によって差がある。関わっている人と関わっていない人がいる。	
⑦ 支援者NWと避難先地域	○支援者NWと避難先の地域とがつながる必要があるのではないか。 ○地域の県人会との連携	



5 主催 広域避難者支援連絡会 in 東京

6 問合せ 広域避難者支援連絡会 in 東京

(事務局) 東京ボランティア・市民活動センター 担当: 加納、阿部、神辺
電話 03-3235-1171 FAX 03-3235-0050 メール kouikihinan@tvac.or.jp

タケダ・赤い羽根
広域避難者
支援プログラム

以上